

第72回 国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 銀賞

渋谷教育学園渋谷高等学校 2年

荒谷 奏

課題②

あなたが国連の総会議場で自由にスピーチすることができるとしたら、何を訴えるか。

副題

なし

今日はこのような貴重な機会をいただきありがとうございます。まず皆様に一つ質問があります。もし、道端で、痩せ細った小さな子に「お金をちょうだい」と言わされたら、あなたはなんと返答しますか。どう対応するのが正解でしょうか。

私はこの夏、小学校を建設するボランティアをするためにカンボジアに行きました。私が渡航する直前に、カンボジアとタイの間で戦闘が起り、渡航には少し不安がありました。そんな不安がある中、カンボジアに着きました。ガイドさんに案内されたのは現地の市場でした。虫が飛び交うカットフルーツ、皮が剥がされた豚の頭、バケツに入った謎の茶色の液体、市場全体に漂う異臭、物乞いをしている手足が不自由な方。日本とは、全く異なる光景に私は衝撃を受けました。そして、そこにあるものや人、全てが怖いと感じました。その中、痩せ細った小さな女の子が近寄ってきて「ギブミーマネー」と言いました。私はその瞬間色々なことを考えました。この子にお金を渡したら、他の人も私に近寄ってきて際限がなくなるかもしれない、でもこんな小さな子が困っているのを見捨ててもいいのだろうか。困った私は「ノー」とだけ言ってその場から逃げました。こんな怖いところで買い物をする気もおきず店員さんと目が合わないように市場を去りバスに乗り込みました。

次は小学校で子供達と交流をする予定でしたが、日本とは全く異なる環境にいる子供達と交流ができるのか不安でいっぱいでした。ですがそんな不安は杞憂でした。子供達は私が到着するなりすぐに話しかけてきて手を繋いてきました。紙飛行機を一緒に作り、一人の子が私の紙飛行機をふざけて奪ったので私がそれを追いかけ、気が付いたら全員で鬼ごっこをしていました。お互いに通じる言語がないので会話はほとんどしていません。ですが、言葉が通じなくても、私達は確かに心が通じ合い、楽しい時間を共有しました。

翌日は小学校の建設ボランティアに行き、そこには多くのカンボジア人の大工さんがいました。レンガの積み上げ方を、大工さんが教えてくれました。失敗ばかりの私を見ても笑いながら何度も教えてくれました。なかなかうまくできない自分にふがいなさを感じていましたが、お昼休憩後大工さん達が「Moi」と私に向かって言いました。ガイドさんは、「Moiは現地の言葉で、おいで、という意味で奏さんが必要だから呼んでいるんですよ」と説明してくれました。私はそれを聞いてとても嬉しくなりました。作業もうまくできない言葉も通じない、足手まといでしかない私をカンボジアの大工さん達は温かく受け入れ、仲間のように扱ってくれたのです。

子供達や大工さんとの交流を通じて、カンボジアに対する私の印象は完全に変わり、当初感じていた恐怖もすっかり消えました。もし最初に市場で感じた恐怖心からカンボジアの人々との交流を避けていたら、一緒に笑い合う機会はなかったでしょう。異なる文化や言語を持つ人々と繋がる場合、まずは交流してお互いを知ることが大切だと実感しました。

ギブミーマネーと言ってきた子が、妹のように私の身近にいる子なら、私は自分の問題として必死に何とかしようとするでしょう。私の友人が食べるものに困っていたら、お弁当を分けたり、親に相談したりして、どうにかしたいと思います。ですが、実際は遠い異国で起きている貧困や飢餓の問題と私は捉えてしまっているので、その解決のために必死で動くことができていません。

未知のものへの恐怖を消し、世界で起きている様々な問題を自分事として捉えていくためには、交流することが不可欠です。幼い頃からこの交流を育める環境があれば、市場の少女の発言はそもそもなかつたかもしれません。この環境をどう構築していくかぜひ皆様にアドバイスをいただきたいです。